



サンビオティック農業

美味しい果物つくろう！マニュアル



<美味しい果物づくりのポイント>

1. 春芽(新梢)の徒長を抑制し、強く大きな花芽を付けること。
2. 春先からの土づくりにより発根促進し、リン酸、ミネラルの吸収を良くすること。
3. 強剪定を控え、光合成能力の高い葉を増やし、葉果比を適切に管理すること。
4. 果実肥大期以降に養分蓄積型(生殖生長型)の生長を促進すること。



ステージ	時期(参考)	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
土づくり (元肥)	11月～ 3月	堆肥・腐葉土・ワラ	1～2トン	全面散布	有機物補給のため、樹冠下を中心に植物性堆肥や腐葉土、ワラ、もみ殻など植物繊維の多いもの(C/N比の高いもの)を施用します。(畜産糞尿堆肥の春施用は、避けたいほうが良い。)必ず土壌分析を行い、pHその他を確認します。pHが低い場合は、カキ殻石灰(苦土入り)を100kg程度散布します。春肥のチッソ施用量(施肥設計)は必要最小限とする。
		有機百倍、またはマッスルモンスター	3～5袋		
		鈴成	5袋		
発根促進 緑化促進	3月～5月	菌力アップ Point	10L 100倍希釈	混合して灌水 2回以上実施	発芽期以降に、菌力と糖力を灌水します。土が団粒化して膨軟になり、根が良く張ります。春の発根が、最終的に品質と収量に影響しますので大切です。土壌を乾燥させないよう定期的な灌水が必要です。
		糖力アップ	5L 200倍希釈		
		コーソゴールド	500倍希釈	葉面散布 2回以上実施	
		本格にがり	1000倍希釈		
夏肥	6月上旬	有機百倍 Point	1～5袋	全面散布	作物により、有機百倍の施用量は調節します。収穫予定が多い時ほど、有機百倍を増やします。品質を上げるため、鈴成施用がとても重要です。多雨及び多収穫の年は、カリ、マグの追肥も。
		鈴成	5袋		
果実肥大期	6～8月	糖力アップ	5L 200倍希釈	灌水 1～2回実施	猛暑で糖分を消耗し、樹勢低下しがちな時期です。アミノ酸を補給しつつ、ミネラルを吸収させます。特に梅雨明け以降、土が過度に乾燥しないよう、10日以上降雨がない時は、夕方5～10トンの水を灌水します。中晩柑は、初秋肥として8月に有機百倍2袋、鈴成2袋を施用します。
		本格にがり	2L 500倍希釈		
果実成熟期	7～9月	コーソゴールド Point	500～800倍希釈	葉面散布 4回以上実施 (7日～10日おき程度) ※葉面散布が難しい作物では、同希釈倍率で灌水	コーソゴールドの適正な濃度が分からない場合は、薄めの基準に合わせて散布します。本気Caは、有機酸カルシウム態となっており、葉面からの吸収もスムーズです。カルシウムが供給されると、果実は光沢を増し、強い着色と香りが促進されます。さらに本格にがりが、コクを増し、何とも言えない、うま味、甘みが醸成されます。この3点セットで、生殖生長を促進することが、高付加価値販売につながります。また、貯蔵性が増し、腐敗率が下がり、品質低下(浮き皮やヤケ、裂果、軟果など)が減ります。
		本気Ca(マジカル)	1000倍希釈		
		本格にがり	1000倍希釈		
礼肥	8月～ (収穫後)	有機百倍	2～5袋	全面散布	収穫後すみやかに、12月以降の収穫作物は、11月中には礼肥を施用します。また、柑橘類では収穫後から1月末までに、尿素500倍+コーソゴールド500倍の葉面散布を最低4回は実施し、樹勢回復に努めます。

※菌力アップは、農薬(殺菌剤、殺虫剤、除草剤)との混合はできません。

※施用時期は「ステージ」を基本にしてください。「時期(参考)」は、標準的な月を表示していますが、作物や地域によって読み替えてください。

※土壌分析値、樹勢、地力等によって、肥料施用量は調整してください。土作りができてくると、肥料を半分程度まで減らしていくことができます。(堆肥の施用量は減らさないようにします。)

※アミノ酸を葉面散布する場合は、「特濃糖力アップ」をお勧めいたしますが、数日間においが残るため収穫の10日前からは控えてください。

※本マニュアルは、みかん・柑橘類、リンゴ、梨、桃、ブドウ、キウイ、マンゴー、その他の果樹を想定していますが、ブルーベリーは別途マニュアルをご参考にしてください。

※土づくりと有機物補給のため、草生栽培(ナギナタガヤ、ヘアリーベッチなど)をご検討ください。

農業革命！農業資材のサンビオティック

sunbiotic